



三川っ子だより

No.12

「わたしらしくあゆんだ」2学期

本日、終業式を終え、77日間の2学期が終わりました。終業式では、3人の代表児童が2学期に頑張ったことの発表をしました。「わたしらしくあゆんだ」2学期であったことがわかる素晴らしい発表でした。

本校の学校教育目標は『わたし』らしくあゆむ子です。「わたしらしさ」って何だろう、と問い掛けると答えに困る子もいるかもしれません。「わたしらしさ」は様々な経験を積みながら、自分自身で新たに作っていくものではないでしょうか。まさにその過程が、成長そのものなのです。行事の多い2学期は、自分の目標に向かって、時には自分で、時には友達と協力しながら、新たな「わたしらしさ」を作るために挑戦をする姿が多く見られました。三川小の子たちにとっては、たとえ苦しいことや嫌なことがあっても、それを乗り越え、挑戦し続けるたくましさが必要と感じます。大切なのは、子供に苦しいことでもあえて挑戦させ、乗り越える経験を積ませていく大人の姿勢でしょう。今後もわたしらしくあゆめる場となるような学校づくりを進めていきたいと思えます。引き続きよろしくお願ひいたします。

命を守ることを第一に



今から80年前、1944年12月7日、和歌山県を震源として、東南海地震が発生しました。各地に大きな被害が出て、三川小学校児童8名の尊い命が失われました。この日に合わせて本校では、避難訓練を実施するとともに、地震を体験した三川在住の池野さんから5・6年生が話を聞き、防災に対する意識を高めました。池野さんは、「袋井市は軟弱地盤で被害が大きく、その後の生活も苦しかった。でも、命があることが一番大事。命を守ることを第一に考えて防災への意識を高めてほしい。」と訴えられました。

さて、12月1日（日）に行われた地域防災訓練への参加ありがとうございました。訓練への参加状況は以下の通りでした。引き続き、防災意識を高めていけるとよいと思えます。

- ・ コドモンによる安否確認訓練への返信数 125人 (93.2%)
- ・ 地域防災訓練への参加児童数 80人 (59.7%)



掲示板

【冬休み中の緊急連絡について】

冬休み中の連絡については下記の通りお願いします。

○12月23日（月）～12月27日（金）、1月6日（月） 8:00～16:30

三川小学校 48-6197

○12月21（土）・22日（日）、12月28日（土）～1月5日（日）

袋井市役所 43-2111

上記の期間は学校閉庁日となりますので市役所に御連絡下さい。



2学期が始まったばかりの頃は、まだ残暑が厳しく、蝉の鳴き声も聞こえていましたが、今は北風が吹き、校庭では、冬の花「サザンカ」の花が咲いています。



2学期は77日間でした。いつものように、「太陽系の地図」で見てください。8月30日に始業式を行い、9月22日に昼と夜の長さが同じになる秋分を迎え、11月7日に、冬の始まりである立冬を過ぎ、そして、今日12月20日は、2学期の終業式です。昼の長さが最も短い冬至は明日です。

残暑が厳しかった秋から、寒い冬に季節が移ってきました。この2学期の間に「命の記念日」を迎えたのは、35人です。おめでとう。一つ一つのかげがえのない命を、これからも大切にしていってください。

さて、2学期の始業式で、私は、ロック歌手の西田蕉太郎さん、料理研究家の脇山順子さんを紹介しました。そして、この2学期に、自分の好きなこと、やってみたいことに挑戦し、「気づき」「考え」「行動」することで、「わたしらしく」過ごしてください、という話をしました。三川小学校の目標、『わたしらしく歩む子』に向かって、皆さんは、この2学期をどのように過ごしましたか。《中略》2学期での頑張りは、このあと担任の先生と一緒に振り返ってみましょう。

突然ですが、ここで、クイズを出します。今から、詩を読みます。この詩を書いた人は、誰でしょう。

「きつと きつて かってきて きつと きつて かって はつてきて」

1 くどう なおこさん 2 谷川 俊太郎さん 3 まど・みちおさん

正解は、2番の「谷川俊太郎さん」です。谷川俊太郎さんは、17歳の時から先月92歳で亡くなるまでの約75年間、詩を書き続けました。この谷川俊太郎さんも、「わたしらしく歩んだ人」です。

小学校の教科書には、谷川俊太郎さんのいろいろな作品が載っています。1年「きつと きつて かってきて」2年「どきん」3年「たいこ」5年「かんがえるのって おもしろい」皆さん、勉強しましたね。

谷川さんは、詩を書くことだけでなく、外国の文学作品を日本語に直す翻訳もしました。皆さんがよく知っている「スイミー」や「マザーグースのうた」などのお話も、谷川さんが翻訳しました。そして、合唱曲・童謡の作詞をしました。たくさんの学校の校歌の作詞もしていて、遠江総合高校の校歌も、谷川さんが作詞しました。また、アニメ「鉄腕アトム」の主題歌の作詞もしています。そして、絵本も作っています。このように、谷川さんは、幅広く作品を書く活動で活躍しました。

今日、私は、谷川さんが書いた1冊の詩集をもってきました。『わらべうた』という詩集です。この中から、三つの詩を紹介します。「うんとこしょ」「わかんない」「おならうた」 《中略》

次は、絵本を二冊紹介します。一冊目は、「ともだち」という絵本です。長いので、一部を紹介します。

ともだちって かぜがうつっても へいきだつて いってくれるひと。
ともだちって いっしょに かえりたくなるひと。
ともだちって おかあさんや おとうさんにも いえないことを そうだんできるひと。
ともだちって みんなが いっちゃったあとも まってってくれるひと。
ともだちって そばにいないときにも いま どうしてるかなつて おもいだすひと。

二冊目は、「ありがとう」です。

空 ありがとう 今日私の上に来てくれて 曇っていても分かるよ 宇宙へと青くひろがっているのが
花 ありがとう 今日咲いていてくれて 明日は散ってしまうかもしれない でも匂いも色も もう私の一部
お母さん ありがとう 私を生んでくれて 口に出すのは照れくさいから 一度きりしか言わないけれど
でも誰だろう 何だろう 私に私をくれたのは？ 限りない世界に向かって私は呟く 私 ありがとう

谷川俊太郎さんの作品には、ユーモアとセンス、深い愛情があり、大人から子供まで、幅広い世代に愛され続けました。だれにもまねできない、谷川さんらしさがあふれる作品です。75年間、自分らしく詩を書き続けた谷川俊太郎さんの生き方に、私は勇気をもらいました。谷川さんの作品は学校の図書室にも置いてありますので、ぜひ「わたしらしく」歩んだ谷川俊太郎さんの詩にふれて、自分の世界を広げてください。

いよいよ、明日から「楽しい冬休み」です。今年を振り返り、新たな気持ちで新年を迎える大切な時期です。皆さんは、どんな冬休みを過ごしたいですか。私は、ススキの穂で、ほうきを作るのが楽しみです。

「いのちは、ひとつ」事故0、けが0、病気0で、元気に過ごしてください。来年1月7日に、皆さんと笑顔で会えることを楽しみにしています。これで、終業式のお話を終わります。